

提出済み要望書 2015 年度②③ 「安全保障関連法」 成立に抗議します(世話人提案)

2015 年 9 月 19 日

安倍晋三内閣総理大臣・自由民主党総裁、山口那津男公明党代表
賛成各党党首(次世代の党、新党改革、日本を元気にする会)、参議院議長あて

国際婦人年連絡会 世話人 山口みつ子
実生 律子
紙谷 雅子

「安全保障関連法」 成立に抗議します

今、私たちは強い憤りと悲しみの中にいます。

海外での武力行使に道をひらく安全保障関連法が成立しました。集団的自衛権行使容認が閣議決定されてから 4 カ月。その間専門家からの「関連法案は違憲」の声は大きくなり、幅広い世代から反対の声が日増しに大きく上がりました。国会を取り巻くデモの人波は審議が進むにつれ 雨の中、また夜遅くであろうとも驚くばかりに膨らんでいきました。12 万人にも上る参加者の背後にはどれだけの声が存在するのか法案賛成議員は思いを致すべきでした。国会の「内」と「外」とのかい離の大きさに敏感であるべきです。

**国会議員には憲法を遵守する義務があります。
憲法に違反する法をつくることはできません。**

自衛隊が海外で武力を行使すれば、日本が標的となることは必至です。

憲法解釈を都合よく変え、民意を一顧だにせず、不条理ともいえるやり方で成立を急いだ政権の意図はどこにあるのですか。米国に追随し、日米安保体制をより強固にすることが平和への道になるとは思えません。私たちは 9 月 19 日を憲法と民主主義が問われた日として忘れず、語り伝えます。

私たちはこれまでも武力でなく外交力を通して平和をつくりだすことを主張してきました。これは理想主義などではなく、今こそ現実的だと確信します。数の力の横暴さを目の当たりにした私たちは来年夏の参院選挙では冷徹な目を持って意思を確かに示すことを目指します。